

第二百六十六條 營利又ハ猥褻ノ目的ヲ以テ被拐取者ヲ收受シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

拐取者ヲ幫助スル目的ヲ以テ被拐取者ヲ藏匿シ又ハ隱避セシタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

(現行第三百四十三條) 略取誘拐シタル幼者ナルコトヲ知テ自己ノ家屬僕婢ト爲シ又ハ其他ノ名稱ヲ以テ之ヲ收受シタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス
(現行第三百四十四條) 前數條ニ記載シタル罪ハ被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス但略取誘拐セラレタル幼者式ニ從テ婚姻ヲ爲シタル時ハ告訴ノ効ナシ

現行法ニ於テハ第三百四十四條ニ於テ前數條ニ記載シタル罪ハ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ストアルヲ以テ婦女告訴ノ道ヲ知ラス親族遠地ニアル者ノ如キハ此不當ノ行爲者ヲ檢舉報告スルコトヲ得スシテ往往法網ヲ免カル、モノアリ新法ハ猥褻結婚ノ目的ヲ以テ拐取シタルモノニ限り告訴ヲ待テ罪ヲ論スルコト、改メセラレタルハ大ニ當ヲ得タル處分ヲ施スコトヲ得ヘシ

第二百六十七條 國外ニ移送スル目的ヲ以テ第二百六十三條第一項、第二項ノ罪ヲ犯シ又ハ偽計若クハ威力ヲ用ヒ人

ヲ拐取シタル者ハ三年以上ノ有期懲役ニ處ス

國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ賣買シ又ハ被拐取者若クハ被賣者ヲ國外ニ移送シタル者亦同シ

(現行第三百四十五條) 二十歳ニ滿サル幼者ヲ略取誘拐シテ外國人ニ交付シタル者ハ懲役ニ處ス

現行法第三百四十五條ハ未成年者ヲ略取誘拐シテ外國人ニ交付シタル者ノ罪ヲ規定シタリ故ニ交付ノ事實アルニ非サレハ本條ノ罪ハ成立セサルモ新法ハ外國ニ移送ノ目的ヲ以テ行フニ於テハ交付ノ事實ノ有無ニ拘ハラズ本條ノ罪ハ成立ス且新法ニ於テハ其拐取者ヲ外國ニ移送スルノ幫助ヲ爲シ其移送ノ目的ヲ達セシメタルモノモ又同罪ニ處スルノ明文ヲ掲ゲタリ

第二百六十八條 本節ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百六十九條 本節ノ罪ヲ犯シタル者ニハ公權剝奪ヲ附加スルコトヲ得

第十三章 名譽ニ對スル罪

第二百七十條 惡事醜行アリトシテ公然之ヲ摘示シ人ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ事實ノ有無ヲ問ハス六月以下ノ懲役又ハ禁錮若クハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

死者ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ誣罔ニ出ルニ非サレハ之ヲ罰セズ

(現行第三百五十八條) 惡事醜行ヲ摘發シテ人ヲ誹毀シタル者ハ事實ノ有無ヲ問ハス左ノ例ニ照シテ處斷ス

一 公然ノ演說ヲ以テ人ヲ誹毀シタル者ハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

二 書類畫圖ヲ公布シ又ハ雜劇偶像ヲ作為シテ人ヲ誹毀シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(現行第三百五十九條) 死者ヲ誹毀シタル者ハ誣罔ニ出タルニ非サレハ前條ノ例ニ照シテ處斷スルコトヲ得ス

第二百七十一條 惡事醜行ヲ摘示セスト雖モ公然人ヲ侮辱シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第二百七十二條 本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

現行法誹毀ノ罪名ヲ新法ハ名譽毀損ノ罪トシ條文新法ハ現行法ノ如ク數

個ノ條件ヲ分タス惡事醜行アリトシテ公然摘示スレハ本罪ヲ構成スルコトヲ示シタリ又現行法罵詈ノ罪ハ第四百二十六條第十二項ニ掲クルモ新法ハ是等ノ所爲ヲモ包含シ公然ノ侮辱罪トシ以テ形容其他ノ方法ヲ以テスルモ皆本條ニ於テ罰スルコトヲ得ヘシ

又現行法ニ於テハ誹毀ノ罪ハ三月以下ノ禁錮ナリシヲ新法ハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ト改正セリ

第十四章 財産ニ對スル罪

第一節 賊盜ノ罪

第二百七十三條 人ノ動産ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百七十四條 暴行ヲ用ヒ又ハ現ニ被害者又ハ被害者ニ於テ救護スヘキ者ノ生命、身體、自由若クハ財産ニ對シ危害ヲ加ヘント脅迫シテ動産ヲ強取シタル者ハ強盜ノ罪ト爲シ三年以上ノ有期懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ不法ニ財産上ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシ

テ之ヲ得セシメタル者亦同シ

(現行第三百六十六條) 人ノ所有物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪トナシ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

(現行第三百七十八條) 人ヲ脅迫シ又ハ暴行ヲ加ヘテ財物ヲ強取シタル者ハ強盜ノ罪ト爲シ輕懲役ニ處ス

(現行第三百七十九條) 強盜左ニ記載シタル情狀アル者ハ一罰毎ニ一等ヲ加フ

- 一 二人以上共ニ犯シタル時
- 二 兇器ヲ携帯シテ犯シタル時

現行法ニ於テハ竊盜ノ罪ト強盜ノ罪ト其節ヲ分チタルモ新法ハ之ヲ併セテ賊盜ノ罪トシ冒頭ニ竊盜及強盜ノ定義ヲ掲ケラレタリ

(現行第三百六十七條) 水火震災其他ノ變ニ乘シテ竊盜ヲ犯シタル者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

(現行第三百六十八條) 門戶牆壁ヲ踰越損壞シ若クハ鎖鑰ヲ開キ邸宅倉庫ニ入り竊盜ヲ犯シタル者ハ亦前條ニ同シ

(現行第三百六十九條) 二人以上共ニ前三條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ

(現行第三百七十條) 兇器ヲ携帯シテ人ノ住居シタル邸宅ニ入り竊盜ヲ犯シタル者ハ輕懲役ニ處ス

(現行第三百七十二條) 田野ニ於テ穀類菜菓其他ノ產物ヲ竊取シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

(現行第三百七十三條) 山林ニ於テ竹木鑛物其他ノ產物ヲ竊取シ又ハ川澤池沼湖海ニ於テ人ノ生養シ若クハ營業ニ關スル產物ヲ竊取シタル者ハ亦前條ニ同シ

(現行第三百七十四條) 牧場ニ於テ牧畜ノ獸類ヲ竊取シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

ニ處ス

現行法以上ニ掲クル各條ハ新法之ヲ條文ニ舉示セス情狀ノ輕重中ニ包含スルヲ以テ審理上當該官ニ於テ十年以下ノ刑期ヲ適宜科スルコトヲ得可キニアリ

第二百七十五條 強盜ノ目的ヲ以テ其準備ヲ爲シタル者ハ

一年以下ノ懲役ニ處ス 但情狀ニ因リ本刑ヲ免除シテ監

視ニ附スルコトヲ得

本條ハ現行法規定ナキ所ナルモ強盜罪ノ如キ特ニ社會各人ノ危險トスル所ノ犯罪ナルヲ以テ豫備ノ所爲ト雖モ之ヲ罰シ若クハ止タ監視ニ附スルカ如キハ最モ必要ノ規定ナリト考フ

第二百七十六條 竊盜財ヲ得テ其取還ヲ拒キ又ハ逮捕ヲ免

レ若クハ罪跡ヲ湮滅スル爲メ臨時暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ強盜ヲ以テ論ス

(現行第三百八十二條) 竊盜財ヲ得テ其取還ヲ拒ク爲メ臨時暴行脅迫ヲ爲シタル者ハ強盜ヲ以テ論ス

現行法ハ財ヲ得テ取還ヲ拒ク爲メトアルヲ以テ其範圍頗ル狭ク若シ財ヲ

得シテ逮捕ヲ拒ミ傷ヲ負ハシメタル時ノ如キ財ヲ得サルカ爲メニ取還
ヲ拒キタルニアラサルヲ以テ強盜ト云フ可カラストノ異論ヲ生シ竊盜未
遂ト毆打創傷トノ數罪俱發ヲ以テ論シタルカ如キ奇觀ヲ生シタリシ然ル
ニ新法ハ逮捕ヲ免カレ若クハ罪跡ヲ湮滅スル爲トノ文字ヲ加ヘタルヲ以
テ事實上ニ於テ是等ノ異論ヲ生スルノ煩ヲ除キ甚タ適當ノ刑ヲ科スルヲ
得ヘシ

第二百七十七條 人ヲ昏醉セシメテ其動産ヲ盜取シタル者
ハ強盜ヲ以テ論ス

近時汽車若クハ汽船中ニ阿片ヲ用ヒ人ヲ昏醉セシメ以テ財物ヲ奪取スル
ノ猾策ヲ爲ス者アルハ往往聞ク所ナリ現行法是等ノ所爲ニ對シテハ只竊
盜罪中水火其他ノ變ニ乘シ爲シタル竊盜罪ヲ罰スルノ條文ノ外適用ス可
キモノナシ新法ハ茲ニ明文ヲ掲ケ以テ是等ノ惡手段ヲ施スモノニ對シ十
分ノ刑ヲ適用スルコトヲ得

第二百七十八條 強盜人ヲ傷シタル者ハ無期又ハ五年以上
ノ懲役ニ處シ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

(現行第三百八十條) 強盜人ヲ傷シタル者ハ無期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ死刑ニ處ス
現行法ニ於テハ強盜人ヲ傷シタルモノハ無期徒刑ニ處スト掲ケタルモ實

際ニ於ケル其行爲ニ付テハ犯罪ノ情狀ニ於テ頗ル輕重ノ懸隔アリ又被害
ノ點ニ於テモ大ナル差異アリテ或場合ニ於テハ現行法ニ依リ二等ヲ酌減
スルモ尙適當ノ刑期ヲ感スルコト往往其實例アル所ナリ新法ハ其刑期ヲ
無期又ハ五年以上ノ有期懲役ト爲シ又死ニ致シタル者ヲ死刑又ハ無期懲
役ト改正セシハ大ニ事實ノ審理上犯情ニ的スルノ刑ヲ科スルコトヲ得ヘ
シ

第二百七十九條 強盜婦女ヲ強姦シタル者ハ無期又ハ五年
以上ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死ニ致シタル者ハ前條ノ例
ニ依ル

(現行第三百八十一條) 強盜婦女ヲ強姦シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第二百八十條 第二百七十四條ニ記載シタル以外ノ脅迫
ヲ用ヒ人ノ動産ヲ奪取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス
前項ノ方法ヲ以テ不法ニ財産上ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシ
テ之ヲ得セシメタル者亦同シ

本條ハ現行法第二百九十條中ニ記載スル一條件即恐喝取財ヲ指スモノニ

シテ現行法ハ之ヲ詐欺ノ部類ヘ包含セシムルモ新法ハ賊盜ノ名ノ下ニ竊盜強盜詐欺取財共ニ之ヲ併記シタリ

第二百八十一條 人ヲ欺罔シテ動産ヲ騙取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ不法ニ財産上ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

(現行第三百九十條) 人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若クハ證書類ヲ騙取シタル者ハ詐欺取財

ノ罪トナシ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

四テ官私ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタル者ハ偽造ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處断ス

(現行第三百九十二條) 物件ヲ販賣シ又ハ交換スルニ當リ其物質ヲ變シ若クハ分量ヲ偽テ人

ニ交付シタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

(現行第三百九十三條) 他人ノ動産ノ動産ヲ冒認シテ販賣交換シ又ハ抵當典物トナシタル者

ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

自己ノ動産ト雖モ已ニ抵當典物ト爲シタルヲ欺隠シテ他人ニ賣與シ又ハ重子テ抵當典物

ト爲シタル者亦同シ

新法ハ詐欺取財ヲ動産ニ限レルモノトシ不動産ハ之ヲ横領ノ罪トシテ第二百八十九條以下ニ掲ケタルハ頗ル當ヲ得タリ現行法ニ於テハ動産不動産ノ文字ヲ明記シタルハ唯冒認罪ニノミアリテ他ニ之ヲ掲ケサルカ故ニ不動産ヲ詐取スルコトヲ得ルヤ否ニ付テハ年來議論一定セス元來不動産

ハ握手スルコトヲ得サルモノナレハ若之ヲ騙取スルコトヲ得ルトセハ只所有權利ヲ奪取シタルモノト言ハサルヘカラス法律上詐取ト稱スルモノハ有形ノモノニ限レリ如斯無形ノモノ即權利騙取ノ如キハ本條規定ノ精神ニアラストノ論アルモ現今ハ不動産モ尙騙取スルコトヲ得ルトノ論ニ一定セシモノ、如シ新法ハ明ラカニ動産ト掲ケ以テ是等ノ論ヲ瞭然氷解セシメタルハ頗ル好良ノ改正ト云フ可ク又恐喝行爲ニ至テハ之ヲ前條ニ掲ケタリ

第二百八十二條 他人ノ爲メ其事務ヲ處理スル者本人ニ損害ヲ加ヘ又ハ自己若クハ第三者ノ利益ヲ圖ル目的ヲ以テ權限外ノ行爲ヲ爲シ本人ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタルトキ八十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百八十三條 未成年者ノ知慮淺薄又ハ人ノ精神耗弱ニ乘シテ其動産ヲ交付セシメ又ハ不法ニ財産上ノ利益ヲ得若クハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

(現行第三百九十一條) 幼者ノ知慮淺薄又ハ人ノ精神錯亂シタルニ乘シテ其財物若クハ證書類ヲ授與セシメタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

新法第二百八十二條ハ現行法ニ明文ナキ所ニシテ大ニ必要ノ規定ナリ他人ノ爲事務ヲ處理スルモノ即幼者ノ後見人ノ如キ自己ノ利益ノ爲メ又ハ他人ヲ利スル爲メ權限以外ノ行爲ヨリシテ本人ニ損害ヲ被ラシメ又ハ銀行或ハ合資會社等ノ役員權限外ノ行爲ヨリ自己ヲ利シ又ハ他人ヲ利シ以テ法人ノ損失ヲ招クカ如キ事實アルコト往往發覺スル處ナルモ現行法ハ本條ノ如キ規定ナキヲ以テ詐欺ノ要素欠缺シタル行爲トシテ倅免ニ歸スルモノナシトセス新法能ク此不備ヲ補フタリ

第二百八十四條 第二百七十三條、第二百七十四條、第二百七十七條及ヒ第二百八十條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ第五百五十三條及ヒ第五百五十四條ノ罪ヲ犯シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ竊盜強盜又ハ人ヲ昏睡セシメ財物ヲ奪ハントスル目的ヲ以テ又ハ恐喝シテ財ヲ奪フノ目的ヲ以テ人ノ邸宅若クハ皇居禁苑内ニ侵入シタルモノ七年以下ノ懲役ニ處スノ法條ニシテ現行法ハ此所爲ヲ規定セサルヨリ其強盜ノ目的ナルコト判明スルモ豫備ニ止ルモノトシテ單ニ家宅侵入

罪ノ外適用スルコトヲ得ス新法ハ玆ニ明文ヲ掲ケ以テ是等ノ所爲ニ適當ノ刑罰ヲ行フコトヲ得セシメタリ

第二百八十五條 直系血族及ヒ同居ノ親族ノ間ニ於テ第二百七十三條及ヒ第二百八十條乃至第二百八十四條ノ罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除シ其他ノ親族ニ係ルトキハ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

親族ニ非サル共犯者ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス

(現行第三百七十七條) 祖父母父母夫妻子孫及ヒ其配偶者又ハ同居ノ兄弟姉妹互ニ其財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ヲ以テ論スルノ限ニ在ラス
若シ他人共ニ犯シテ財物ヲ分チタル者ハ竊盜ヲ以テ論ス
(現行第三百九十八條) 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者第三百七十七條ニ掲ケタル親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

現行法ハ祖父母父母以下同居ノ兄弟姉妹互ニ盜ヲ爲スモ其罪ヲ論セサルコトヲ掲ケ他人共ニ犯シタル場合財ヲ分チタル者ハ其罪ヲ論スル明文アルヨリ實際分財ノ事實甚タ疑點多ク處分上往往困難ノ件アリシモ新法ハ此文字ヲ除キ親族外ノ共犯者ハ此ノ限ニアラストシ其財ヲ分ツト否ニ係ハス之ヲ論スルコト、シタルハ大ニ明了スルヲ得タリ

第二百八十六條 自己ノ動産ト雖モ質權又ハ留置權ニ因リ他人ノ占有ニ屬シ又ハ官署若クハ公署ノ命ニ因リ他人ノ看守シタルモノナルトキハ他人ノ財物ヲ以テ論ス

(現行第三百九十六條) 自己ノ所有ニ係ルト雖モ官署ヨリ差押ヘタル物件ヲ竊匿脱漏シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス 但家資分散ノ際此罪ヲ犯シタル者ハ第三百八十八條ノ例ニ照シテ處斷ス

現行法ハ竊匿脱漏ノ例示ヲ條文中ニ加ヘタルモ新法ハ是等ノ文字ヲ省キテ一切他人ノ財物ト爲シ其手段ノ如何ニ拘ハラヌ之ヲ竊取詐取スレハ本罪ヲ構成スルコトヲ揭示シタリ

第二百八十七條 本節ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス 但第二百七十五條ノ罪ハ此限ニ在ラス

第二百八十八條 本節ノ罪ヲ犯シタル者ニハ公權剝奪ヲ附加スルコトヲ得

本節ノ罪ヲ犯シ 有期懲役ニ處ス可キ者ニハ監視ヲ附加スルコトヲ得

(現行第三百九十七條) 此節ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

(現行第三百九十四條) 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第二節 占有物横領ノ罪

第二百八十九條 他人ノ爲メ占有スル動産又ハ不動産ヲ横領シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス 自己ノ動産ト雖モ官署又ハ公署ヨリ保管ヲ命セラレタル場合ニ於テ之ヲ横領シタル者亦同シ

(現行第三百九十五條) 受寄ノ財物借用物又ハ典物其他委託ヲ受ケタル金額物件ヲ消費シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス若シ騙取拐帶其他詐欺ノ所爲ナル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

(現行第三百九十三條) 他人ノ動産不動産ヲ冒認シテ販賣交換シ又ハ抵當典物ト爲シタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

自己ノ不動産ト雖モ己ニ抵當典物ト爲シタルヲ欺隱シテ他人ニ賣與シ又ハ重子テ抵當典物ト爲シタル者亦同シ

新法ハ現行法受寄財物消費ノ罪冒認ノ罪拐帶ノ罪ヲ合セテ横領罪トシテ能ク一箇條中ニ網羅シタリ横領罪ノ本質ハ他人ニ屬スル財物ヲ以テ我物トナスヲ指稱スルモノニシテ一語ノ内ニ能ク此三個ノ罪名ヲ包括シタリ

現行法ハ冒認シテ販賣云トアルヲ以テ未タ他人ノ物ヲ我物ナリト主張スルモ此主張ノミニテハ罪ヲ構成スルコトナシ新法ハ既ニ我物ナリト主張スル時ヲ以テ罪ヲ構成セルモノト爲シ又現行法騙取拐帶其他詐欺ノ所爲アルモノハ詐欺取財ヲ以テ論スノ一文章ニ至テハ殆ント事實ニ照ラシ精神ノアル所ヲ知ルニ苦ムハ皆人ノ論スル所ナリシカ新法ハ横領罪ノ内ヘ拐帶モ又包含セルヲ以テ罪質ノ區別判然セリ

第二百九十條 業務上他人ノ爲メ占有スル動産又ハ不動産ヲ横領シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

本條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ公權剝奪及ヒ監視ヲ附加スルコトヲ得

本條ハ現行法ニ條文ナキ所ニシテ實際往往議論アル所ノモノナリ而シテ其動産ニアツテハ消費シタル時委託物消費罪ヲ以テ論スルコトヲ得ルモ未タ費消セサル時ハ犯罪構成ヲ缺ク例ヘハ質商生絲ヲ擔保トシテ金圓ヲ貸與シ未タ期限ニ至ラサルニ相場ノ暴騰シテ過分ノ利益アルニ迷ヒ私擅ニ賣拂ヒ期限ニ至リ品受ケニ來レハ既ニ期限經盡セルモノナリト主張シ或ハ商信用上ヨリ生繭ヲ預リ小額ノ金圓ヲ融通ノ爲貸置キ證書ナキヲ奇貨トシ擅ニ賣拂ヒ買受ケタルモノト主張スルカ如キ其所爲甚タ惡ム可

クシテ其罰ハ甚タ輕キノミナラス他ヘ賣ラントシタル際ニ於テ發覺シタル時ハ未タ費消セサルヲ以テ之ヲ罰スルノ條文ナク遂ニ不問ニ置カサルヲ得ス又既ニ賣拂濟ノ事件モ被害者告訴スレハ被告人或ハ金圓ニテ償ヒ若クハ賣拂ヒタル物品ヲ取戻シ甚シキハ壯士ヲ用ヒテ告訴人ヲ威迫シテ示談濟ノ旨ヲ以テ告訴ノ取下ヲ爲ス此場合ニ於テハ被害者費消金ノ返附ヲ受ケタリトシテ告訴願下ルニ至ラハ到底公訴ヲ提起スルモ維持スルコトヲ得ス新法ハ實ニ此弊ヲ除クコトヲ得ヘシ

第二百九十一條 遺失物、漂流物其他人ノ占有ヲ離レタル動産ヲ得テ之ヲ横領シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第二百九十二條 本節ノ罪ニハ第二百八十五條ノ規定ヲ準用ス

(現行第三百八十五條) 遺失及ヒ漂流ノ物品ヲ拾得テ隱匿シ所有主ニ還付セス又ハ官署ニ申告セサル者ハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
(現行第三百八十六條) 他人ノ所有地内ニ於テ埋藏ノ物品ヲ掘得テ隱匿シタル者ハ亦前條ニ同シ
(現行第三百八十七條) 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者第三百七十七條ニ掲ケタル親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

現行法ハ遺失物漂流物埋藏物ノ三種ヲ掲ケタルモ新法ハ遺失物漂流物其

他人ノ占有ヲ離レタル動産トシ此三種ニ限ラス汎ク之ヲ適用スルコトヲ得例ヘハ道路ノ砂石ヲ擅ニ取り去ル者ノ如キ往往之ヲ竊盜罪ヲ以テ論スルモ是等ハ嚴格ニ論スレハ人ノ所有ニ屬スル財物トシテ論スルハ稍附會ヲ免レサルナリ其他是ニ類スルノ所爲ニシテ不問ニ附ス可カラサル性質ノ行爲一ニシテ足ラス新法ハ能ク是等ノ所爲ニモ適用シ得ヘシ本節モ又直系血屬及同居ノ親族間ニ於ル其刑ヲ免除スルハ甚タ人情ニ適シタル規定ト考フ竊盜詐僞取財トノ權衡上又本條ノ規定ナカルヘカラサルハ勿論ナリ

第三節 贓物ニ關スル罪

第二百九十三條 贓物ヲ收受シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

贓物ノ寄藏、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役及ヒ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

(現行第三百九十九條) 強竊盜ノ贓物ナルコトヲ知テ之ヲ受ケ又寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ三四以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
(現行第四百一條) 詐欺其他ノ犯罪ニ關シタル物件ナルコトヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲シタル者ハ一年以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金

ヲ附加ス

現行法ニ於テハ強竊盜ノ贓物ト詐欺取財ノ贓物トニ區別ヲ設ケ其刑期ヲ異ニシタルモ新法ハ是等ノ區別ヲ廢シ總テ何罪タルニ拘ハラズ贓物タルコトヲ知テ之ヲ收受シタルモノハ五年以下ノ懲役ニ處スト定メ又故買牙保寄藏ニハ十年以下ノ懲役ト併テ五百圓以下ノ罰金ヲ科ス
新法中體刑ト罰金刑ト併科スルモノ實ニ本條ノミトス是此種ノ罪ハ不正行爲者ヲ助クルト共ニ自己カ不正ノ利得ヲ獲取スルコト少ナシトセス故ニ體刑ノミヲ以テ罰スルモ財産上不正利得ハ依然存スルヲ以テ併シテ兩刑ヲ科シ以テ十分懲戒ノ效ヲ奏セントスルニアラン

第二百九十四條 前條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ公權剝奪及ヒ監視ヲ附加スルコトヲ得

(現行第四百條) 前條ノ罪ヲ犯シタル時ハ六月以上二年以下ノ監視ニ附ス

第二百九十五條 直系血族同居ノ親族及ヒ此等ノ者ノ配偶者ノ間ニ於テ第二百九十三條ノ罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除ス

本條ハ現行法ニ規定ナキ所ニシテ最モ本條ヲ必要トスル場合多多其例ア

リ例へハ父竊盜ヲ爲シ盜奪シ來リタル品物ナルコトヲ知テ其子密ニ藏匿
スルカ如キ所爲又夫カ竊取シタル金圓ヲ以テ婦カ衣類ヲ調製シタルカ如
キ又極論スレハ戸主カ盜奪シ來リタル金圓ヲ以テ一家ノ食料ヲ供給シタル
如キ其盜賊タルコトヲ知ルモ之ヲ寄藏收受ヲ以テ論スルハ苛察冷酷ナル
ヲ免カレサルナリ然レトモ法律上本條ノ如キ規定ナキニ於テハ情ニ因テ
法ヲ度外視スルコトヲ得サルヨリ往往一家悉ク寄藏ノ刑ヲ受クルカ如キ
例ナシトセス本條ハ是等ノ點ヨリ考フルモ必要ナリトス

第四節 財物毀棄ノ罪

第二百九十六條 公務所ノ用ニ供スル文書ヲ毀棄シタル者

ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百九十七條 權利、義務ニ關スル人ノ文書ヲ毀棄シタル

者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス 但告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

(現行第四百二十四條) 人ノ權利義務ニ關スル證書類ヲ毀棄滅盡シタル者ハ二月以上四年以
下ノ重懲罰ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

現行法ニ於テハ官文書毀棄罪ハ官文書偽造罪ノ節中ニ掲ケ本節ハ私文書
中權利義務ニ關スル文書毀棄ノミヲ掲ケタルハ其當ヲ得サルモノニシテ
偽造ト毀棄トハ其性質ヲ異ニスルハ何人モ異論ナキ所ナリ若シ官文書毀

棄ヲシテ偽造ノ節中ニ掲ケタルハ正鵠ヲ得タルモノトセハ私文書毀棄モ又
偽造節目中ニ掲ケサレハ論理一貫ヲ缺クモノト云フ可シ何カ故ニ私文書
毀棄ノミヲ本節ニ掲ケタルヤ其意ノアル所ヲ知ラス新法ハ此誹難ヲ避ケ
公務所ノ文書ト權利義務ニ關スル私書トヲ共ニ本節ニ掲ケタルハ頗ル編
纂ノ體ヲ得タルモノト云フ可キナリ又現行法ハ右ノ如ク同一性質ノ犯罪
事項ヲ斯ク別節ニ記載スルヲ以テ犯罪案件アルニ當リ條文ノ搜索ニ於ル
モ其不便不少ナリ新法又此害ヲ除キタリ

第二百九十八條 人ノ建造物又ハ船舶ヲ毀壞シタル者ハ五
年以下ノ懲役ニ處ス

因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從
テ處斷ス

(現行第四百十七條) 人ノ家屋其他建造物ヲ毀壞シタル者ハ一月以上五年以下ノ重懲罰ニ處
シ二圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス
(現行第四百十八條) 人ノ家屋ニ屬スル牆壁及ヒ圍地ノ裝飾又ハ田圃ノ樊園牧場ノ柵障ヲ毀
壞シタル者ハ十一月以上三月以下ノ重懲罰ニ處シ又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

家屋建造物毀棄ノ場合ニ於テハ實際暴行ニ出ルモノ多キヲ以テ之ニ伴フ
テ死傷ヲ出スコトハ免ルヘカラサル所ノ結果ナリ新法モ之ヲ豫想シ第二

項ニ於テ死傷ヲ出シタル時ハ傷害罪ニ比較シ重キニ從テ論スルコトヲ揭ケタリ又現行法ニ於テハ人ノ家屋建造物ト記シ船舶ノ文字ヲ加ヘス或ハ論シテ船舶モ又建造物ナリト是甚タ附會ノ說ニシテ到底船舶ヲ以テ建造物ナリトセサルハ一般ノ是認スル處ナレハ若シ之ヲ毀棄スルモノアルニ於テハ到底一ノ物件ト見做シ物件毀棄ヲ以テ論セサル可カラス然ルトキハ家屋毀棄ノ場合ト其權衡ヲ得サルノ感ヲ免レサルナリ新法ハ特ニ船舶ノ文字ヲ明ニ記シ以テ現行法ノ缺點ヲ補ヒタリ

第二百九十九條 前三條ニ記載シタル以外ノ物ヲ毀損又ハ傷害シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス 但告訴ヲ待テ其罰ヲ論ス

第三百條 自己ノ物ト雖モ差押ヲ受ケ又ハ物權ヲ設定シ又ハ賃貸シ若クハ保險ニ附シタルモノヲ毀損又ハ傷害シタルトキハ前三條ノ例ニ依ル

(現行第四百十九條) 人ノ稼穡竹木其他需用ノ植物ヲ毀損シタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ重禁錮ニ處シ又ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス
(現行第四百二十條) 土地ノ經界ヲ表シタル物件ヲ毀壞シ又ハ移轉シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(現行第四百二十一條) 人ノ器物ヲ毀棄シタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス
(現行第四百二十二條) 現行第四百二十三條刪除

現行法ハ第四百十九條以下ニ於テ毀棄物件ノ種類ヲ分チテ其刑ヲ異ニスルモ新法ハ前三條ニ記シタル以外ノモノトシ汎ク何品ニモ適用スルコトヲ得セシメタリ而シテ現行法規定ナキ所ノ差押ヲ受ケ又ハ保險ニ付シタルモノヲ毀損傷害シタル場合モ到底其責ヲ免カルヘカラサルコトヲ定メラレタリ又現行法家畜ヲ殺シタルモノヲ罰スルノ條文ヲ本節中ニ掲ケタルモ新法之ヲ削リタリ
本書ハ只其異同ノ概略ヲ論シタルニ過キス其詳論ニ至テハ他日述フル所アルヘシ

刑法異同概論畢

明治三十四年九月廿七日印刷
明治三十四年十月一日發行

著者 福鎌芳隆

名古屋市武平町二丁目百三十番戶

發行者 田山宗堯

東京市日本橋區數寄屋町一番地

印刷者 齋藤章達

東京市日本橋區兜町二番地
(東京印刷株式會社)

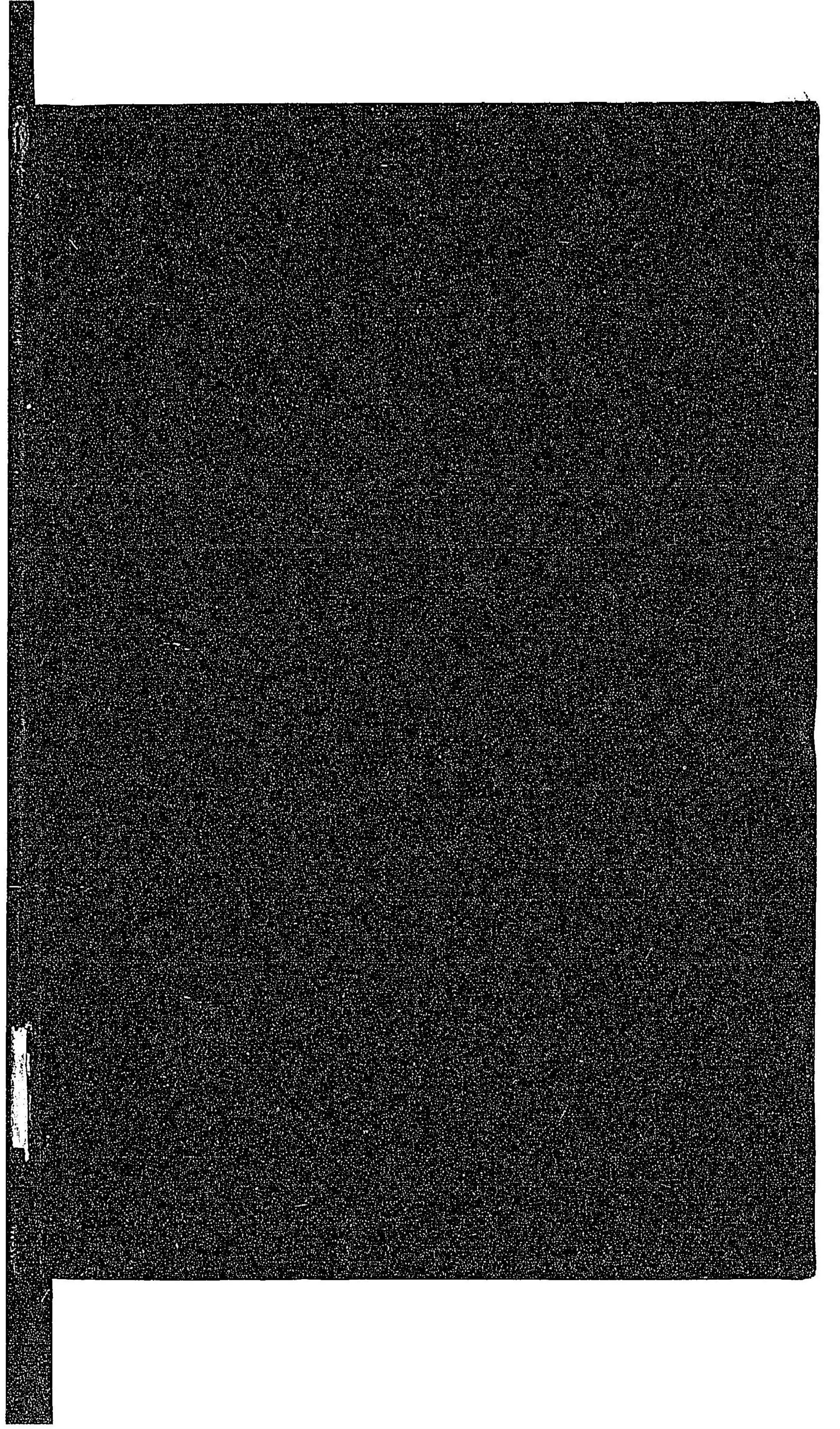
44/2/39

發行所 警眼社

東京市日本橋區數寄屋町一番地

44

91
132



91
132

035621-000-5

91-132

刑法異同概論

福鎌 芳隆 / 著

M34

BBP-0173



91-132